

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会・柏税務署

我孫子市長賞

税がくれた安心

我孫子市立湖北台中学校 第3学年 安原 望叶

毎朝、当たり前のように学校へ通い、授業を受け、友達と笑い合う。体調が悪くなれば病院で診てもらい、困ったことがあれば警察や消防に助けてもらえる。そんな何気ない日常は、ずっと「ふつう」と思っていた。でもある日、これらはすべて税金によって支えられていると知つて、私はとても驚いた。

税金は、ただ大人が国に払うお金だと思っていた。しかし実際には、社会全体を支える大切なしくみであり、誰かの暮らしを守る大きな力だった。学校も病院も、道や公園も、そして私たちが安心して暮らせるためのさまざまな場所や仕組みが、税によって成り立つていることに気づいた。

目には見えないけれど、税は私たちの生活の土台になつていて。消防車がすぐに来てくれるのも、困っている人のために支援が届くのも、税があるからこそだ。例えば、災害が起きたときには、税のおかげで復旧のための資金が確保され、人々の生活が早く元に戻る。こうした助け合いのしくみが、税金によって支えられていると感じた。

また、道路や橋、公園といった公共施設があつて初めて整備され、みんなが安全で快適に暮らせる環境が保

たれている。私たちの身の回りの便利さや安心は、税による支えなしには成り立たないのだと改めて知つた。

さらに、税は単なるお金のやり取りではなく、社会の中で人と人をつなぐ役割も果たしている。誰かのためを思う気持ちが税という形になり、困っている人や助けを必要とする人に届いている。そう考えると、税は人の思いやりや社会の絆の象徴のようにも思えてきた。

私はまだ、税金を払う年齢ではないが、将来大人になつて働くようになつたら、自分も社会を支える一人になれる。そう考えると、少しだけ自分が成長したような気がした。そして、これから社会をどう支えていくか、私たちが考えていかなければならぬ時代が来ているとも感じている。

これから先、社会の形や暮らし方は大きく変わっていくと思う。災害の増加や高齢化、世界の情勢の変化によって、税金の使い道も変わっていくだろう。その中で、限られた税金をどう分け合い、未来へ繋いでいくかが、私たち一人一人に問われていると感じる。

税はただのお金じゃない。それは、私たちの暮らしをつなぎ、守り、未来をつくる力だ。今まで何気なく過ごしていた日常の中に、たくさんの支えがあることを知つた今、私はその安心をこれからも大切にしていきたい。そして将来、安心を受け取るだけではなく、次の世代が笑顔で暮らせる社会をつくる一人になりたい。

